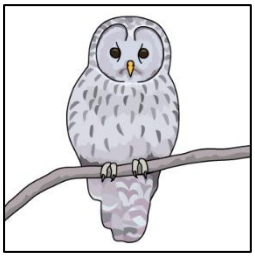

News Letter　no.25

ニューズ・レター

日本図書館協会児童青少年委員会 2020. 12.10

ISSN 2188-6067

シリーズ　児童図書館員養成専門講座のこれからを考える　第２回

引き続き、2013 年から 2019 年に受講された方々から、

1　専門講座の思い出

2　今、何をされているか

3　今年度予定していた講座内容をみて感想や提案

をまとめて頂きました。

第２回目の今回は、7 人の方の文章を掲載いたします。専門講座への提案として、

・時代に即して講座内容を変えることも必要ではないか。例えば、障害者サービスに関する講座の拡充など。

・発表に対する、受講者同士のディスカッションの場が欲しい。

・ブックトークの設定は、各自が詳細に行うべきではないか。

・講座期間中に訪れるべき場所の資料が欲しい。

・紙芝居の講座の開催。

・対面でこそ行うべき講座もあるが、オンラインでの受講の可能性も考えてほしい。

・前期日程中に受講者同士で交流できる場が欲しい。初日にグループワークを取り入れてはどうか。

・「ステップアップ講座」のように２段階に分ける、地域ごとに開催するなど、受講のチャンスを増やしてほしい。

などのご提案をいただきました。

今後も、連載を予定しております。2012 年以前に受講された方、受講はしていないけれど、という方々からのご意見をお待ちしております。日本図書館協会児童青少年委員会担当へお知らせください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

児童図書館員としての礎を築いた養成講座

第 33 回（2013 年）受講生　岩城典子
（福井市立図書館、日本図書館協会認定司書第 1168 号）

養成講座を受講してもう７年が経とうとしていますが、今でも各講師の方が熱意を込めて教えてくださったこと、司書の仲間と夕食も共にしながら語ったことをはっきりと覚えています。児童サービスに携わる司書として、同じ悩みを抱えている仲間と出会い、学び合い、様々な話ができたことは貴重な経験でした。先輩司書からも聞いていたとおり、確かに事前課題は多かったです。でも、今自分がどんな図書館に勤め、何を意識して過ごしているのか頭の整理をすることに繋がり、全て必要な準備だったと思います。印象に残っているのは、東京子ども図書館で松岡享子先生が贈ってくださった言葉です。「Thanks in advance－これからあなた方が、たくさんの子ども達に本を薦めてくださることに、前もってお礼を申し上げます。皆さんの活躍に期待しています。」児童図書館員として全力を尽くそうと決意した言葉でした。

講座修了後から、学校の先生や学校司書、読み聞かせボランティアなど大人を対象に講座を行い、子どもの読書環境を整えていく機会を増やすことができたのが、大きな変化でした。本から学ぶこともちろんありますが、それまで「何となくいいもの」と経験や感覚でつかんで進めてきたことも、講師の話を聞くことで、理論的に説明することができるようになりました。自らの中に司書としての礎を築くことができた養成講座に感謝しています。

現在も児童サービスを担当し、様々な行事や読書推進企画を実施し続けています。その中で、一度きりの楽しい行事で終わってしまうだけでなく、もっと人と人が繋がり、本の楽しみを共有しあうことはできないかと模索し始めました。カウンターにいる時間は、来館してくれた子ども達と本の話ができますが、１対１の対話からもっと広げたいと思ったのです。そのとき養成講座で出会った宇都宮市の方が話していた「うつのみやこども賞」のことを思い出しました。本好きな子のコミュニティを作ろう！こうして、福井市では昨年から「こども司書くらぶ」の結成と「こどもの本大賞」を設けることにしました。大賞の候補本を読んだ感想を司書くらぶメンバーで共有したり、自分が薦めたい本に投票したり、集まってお仕事体験をしたり…。「こども司書くらぶ」は本好きな子が仲間と出会い、新しいジャンルの本と出合い、そして作家さんとも繋がる機会を提供しています。私たち司書にとって研鑽となるだけでなく、たくさんの気づきがあり、この活動は認定司書を取るきっかけにもなりました。将来司書になりたいという夢を話してくれる子ども達に出会い、私たちが司書の仕事を次世代に繋いでいかなければならないという気持ちになりました。非正規職員が増え、公共図書館を取り巻く状況は楽観視できるものではありませんが、司書としての使命を果たしたいと思っています。

この度改めて養成講座のプログラムを拝見し、今なおプログラムが変わらず行われてい

ることを嬉しく思いました。私たちが届けるのは「質の良い」読書であり、そのためには良い本を選書できる目を持つことが重要と考えています。見た目やノウハウではなく、児童図書館員としての基礎を確固たるものにする養成講座のプログラムは、いつの時代にも欠かせません。受講するには様々なハードルがあるかと思いますが、大きな転機となる 15 日間になることと確信しています。図書館に置く一冊一冊の本が市民の人間性を深め、まちづくりに繋がっていることに責任を感じながら、多くの方に受講していただきたいと思います。

◇◇◇

いただくことができた。

３　今後の講座内容について

（１）プログラムが以前とあまり変わっていないことに疑問を覚える。時代に即して児童サービス担当者が研鑽すべき内容も変わってくると思われる。

現場で役に立つのは，押樋先生の「図書館の魅せ方」の講座と「脳科学から見た子どもの読書の重要性」の講座，そして選書についての講座だと思われる。

前者の２講座は，児童サービスのスキルではなく考え方・在り方等根幹に関わるものであり，しかもこれらの講師を単館で招へいするのは難しい事情がある。

また，読書が子供に与える影響は，児童サービスの意義にも関わる内容であるが，図書館職員の実践だけでは検証できない。専門家による最新の調査研究に基づいたエビデンスを示していただくことは，子供の読書活動推進をバックアップすることにつながる。

さらに，障害者サービスの講座の充実が求められる。タイトルのとおり，「図書館利用に障害のある」人へのサービスと捉えて広範な可能性を追求してほしい。

（２）講座の運営方法についても，改善を検討するべきではないかと思う。

具体的には，受講者同士がディスカッションする場を取り入れてはどうか。例えば，ブックトーク後に講師の講評を聞くだけでなく，実演者がどういう思いで作成し実演したかをスピーチする。それに対して他の受講者が気付きや自分だったらどうするかを発言する等。

こういったことにより，同じ題材をどう扱うことができるか，また，何のためにブックトークをするのかといった理解を深めることができる。

補足だが，ブックトークの設定は各自が詳細に行うことも求められる。実際の場では，効果的なブックトークを行うためには，対象についての把握が欠かせない。年齢・性別・人数・参加者の読書経験・読解力等，相手によってどういう組み立てにするかを考えることが重要だと思われる。

◇◇◇

が図書館員として子どもたちに働きかけるときの支えになっている。

事前課題では、多くの資料に触れることができたため、経験の浅い分野では足掛かりを作ることができ、限られた時間の中で成果物を作る特訓になった。受講中は、他の受講者の読み聞かせや紹介を楽しみながら、実感を伴った学びの体験ができた。同期は、発表も、各々が置かれた環境のことも含め、どの方も一人ひとりが深く印象に残っている。休憩時間にLINE グループを作り、今も断続的な情報交換をしている。いつの日か同期の図書館を訪ねたい。

私は福井市の図書館で 15 年目の図書館員をしているが、所属する図書館で司書の末席にいることは５年前の受講時と変わらない。受講後、自分が児童サービスの主担当者を務めた時期もあったが、現在は、先に養成講座を受けた先輩二人が自館の児童サービス担当者を務めている。とは言えども、自分はいつも現場にいるので、児童書の選書、特設コーナーの作成、定例行事の実施、図書館訪問、職場体験、読書相談の対応、小学校や児童館へ各学年ごとに毎月配本する本の選書、学校訪問などを通して、途切れることなく子どもたちに関わり続けている。

福井市立図書館全体では、養成講座の受講経験者が各館で児童サービスを担当し、学校や地域で読書活動をする人たちと連携を強めて、児童サービス活動の幅を広げている。それに伴い、自分も以前は恐る恐るだった選書や、ブックトーク、行事の企画、本の紹介文の執筆の機会が増えた。

今後の養成講座の内容については、これまでどおり、受講者自らが多くの実践を通して学ぶ内容が望ましいと思う。ただ、おはなしやブックトークなどは、心から面白いと感じられて初めて醍醐味が味わえたので、経験を積んだ実践者から聴くことは大事だと思う。長期にわたって東京に滞在する機会が滅多にない者としては、この機会に図書館員として見学しておくとよい場所を紹介した資料を提供してもらえるとありがたい。

◇◇◇

講座受講時の思い出というと、やはり「課題が大変だったこと」が真っ先に頭に浮かびます。職場の先輩たちから聞いてはいましたが、思った以上の量と、締め切りの間隔の短さで、ちょうど業務の繁忙期と重なったこともあり、日々睡眠時間を削って取り組みました。しかしその分、当日の講座では、講師の方々が受講生１人１人の提出課題に対して丁寧かつ詳細に指導やアドバイスをしてくださり、時間があっという間に感じられるほど、中身の濃い研修を受けることができました。講座の内容としては、大学の先生方による理論的な講義と、図書館職員の先生方による実践型の講義とがあったことで、日常の業務に役立つ技能と、それを下支えする理論の両方を学ぶことができました。特に大学の先生方の講義では児童資料を歴史や変遷、時代ごとの意義など学術的な観点でとらえて語られていることが印象深く、普段の業務では考えていなかった視点を与えていただけたと思います。

また、同期の受講生の方々との交流も思い出深いです。それぞれ、図書館員としての経歴や経験年数、勤務地や館の規模などにおいて多種多様でしたが、児童サービスという共通の話題があり、加えて「大変な課題をこなした」という経験を共有しているせいか、お互いに打ち解けるのが早かったように思われます。講義時間以外にも、それぞれの館の状況や取り組み、悩み事など話し合うことができたのは貴重な経験でした。同期生の方々とは、講座の終了後も同期会を行ったり LINE で情報交換したりと交流が続いています。

【現在の業務について】

現在も児童サービスを担当しており、養成講座受講後は、図書館員やボランティアの方向けの読み聞かせ研修など、児童サービスに関する研修の講師を務める機会が増えました。そのたびに講座のレジュメや配付資料を読み返し、参考にしています。講座受講前は自信のなさから講師を務めることにためらいがありましたが、受講後は「養成講座修了生なのだからやらなければ！」と自分に発破をかけるようにしています。講座の受講については、知識や技能が身につくことはもちろんですが、心の支えといった部分がより大きいと今では思っています。

◇◇◇

サービスの一つとして動画配信をしています。

講座では何と言っても他の受講生の存在が刺激になりました。こんなに頑張っている人たちが大勢いることを知り、各館で一生懸命取り組んでいる様子を聞き、励みになりました。

講座終了後、同期の皆さんはメーリングリストで活発に意見交換や状況報告などをされています。(私は読んで、参考にさせていただくばかりですが)。皆さんが頑張ってらっしゃることを知り、嬉しく思うばかりです。

講座は内容が濃く、大変充実したものでした。しかし、それ以上に感動したのが、先生方の応援です。様々な形態で働いている私たちに、「身を削るのではなく、工夫をして子どもたちのために必要なことをやっていくこと。上手に相手を説得していくこと。積極的になること」を教えてくださいました。

今後の講座に関してですが、私は毎朝、慣れない通勤ラッシュで疲労してしまった部分もあったので、オンライン受講も考えられるのではないかと思います。ただ、ストーリーテリングやブックトーク、お話会など生の声を伝えていく講座は対面で行えるといいと思います。養成講座の宝である「同期との繋がり」も同じ空間を共有したからこそ培われるものかもしれません。講座内容に関しては、当館のお話会で毎回実演している（する予定）紙芝居の講座があると即業務に活かせると思います。

◇◇◇

いくつもいただきました。

2020 年のカリキュラムを拝見しましたが、順序の変更以外は 2019 年に私が受講した内容と同じでした。今思い返して感じるのは、前期日程で同期と交流する仕掛けが複数あると良かったということです。

2019 年に後期日程だった「選書・蔵書構成」は、班に分かれ話し合う場面があったので、その点で、前期日程に設定されることでその仕掛けの１つとして期待できるのではと思いました。また、時間的に厳しいかもしれませんが初日にグループワークを取り入れてみるのも１つの手かもしれません。

講座という機会に普段は別の図書館に勤めている者同士で過ごせたのは貴重な時間で、同期の存在をありがたく感じています。演習で複数の実演を共有させてもらえるという経験は普段はなかなか得られないものですし、講座の合間にいろいろな話をさせてもらったことも含め、同期との思い出がヒントをくれたり、心の支えになってくれたりしています。

講師の先生方と同期には、お礼の言葉があるばかりです。

コロナ禍の鎮静と皆様の健康を祈りつつ、今後も仕事に励みたいと思います。

◇◇◇

口説」の練習も始めました。シマの文化を後世に残すべく、口説と昔話を語る会を発足しようと画策しています。そのうち、どこかでお披露目したいものです。

今回、児童図書館員養成専門講座受講は、私にとって、とてもハードルの高いことへのチャレンジでした。受講生の中には、同じ職場から継続的に研修に参加されている図書館の方もいらっしゃいました。職場環境は様々ですが、研修会場から遠いとなかなか研修に参加することは難しくなると思います。「ステップアップ研修」のように２段階に分けるとか、北海道・東北・北陸・関東・関西・中国・四国・九州・沖縄と各ブロックに分かれて開催できるような研修になるともっと児童図書館員のすそ野が広がるのではと思います。

今年は、コロナの影響で講座自体が開催されなかったとのことですが、いっそのことリモートで開催すると多くの人が、研修会場からの距離を気にせず参加できるのではと思いました。

長丁場な研修講座ですが、ぜひ、一人でも多くの方に児童図書館員養成専門講座を受講して頂きたいと思います。

◇◇◇